

# Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス  
東京都港区東新橋1-9-1

## 為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら上値を追う展開か

[8月28日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月21日～8月25日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	145.26	146.63(25)	144.54(23)	146.44	+1.05
ユーロ・ドル	1.0877	1.0930(22)	1.0766(25)	1.0796	-0.0077

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	31,624.28	+173.52	日本10年債利回り	0.661	+0.026
ダウ平均株価	34,346.90	-153.76	米10年債利回り	4.235	-0.019

=====

<来週の主要経済統計等>

- 28日 豪7月小売売上高  
日本6月景気動向指数改定値
- 29日 日本7月雇用統計、日本7月有効求人倍率  
米6月住宅価格指数、米6月S & Pケースシラー住宅価格指数  
米8月消費者信頼感指数、米雇用動態調査 (JOLTS 求人件数)
- 30日 豪7月住宅建設許可件数、豪7月消費者物価指数  
スイス8月KOF先行指数  
独8月消費者物価指数速報値  
米8月ADP雇用統計  
米第2四半期GDP改定値
- 31日 日本7月小売業販売額、日本7月鉱工業生産指数速報値  
中国8月製造業PMI、中国8月サービス業PMI  
スイス7月小売売上高  
独8月雇用統計  
ユーロ圏8月消費者物価指数速報値、ユーロ圏7月雇用統計  
カナダ第2四半期経常収支  
米新規失業保険申請件数、米7月個人所得・個人支出  
米8月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 中国8月財新製造業PMI  
スイス8月消費者物価指数  
独8月製造業PMI 確報値、ユーロ圏8月製造業PMI 確報値  
英8月製造業PMI 確報値  
カナダ第2四半期GDP  
米8月雇用統計  
米8月製造業PMI 確報値  
米8月米ISM製造業景況指数、米7月建設支出

【前回のレビュー】米10年債利回りは底堅い米国の景気や利上げ継続の可能性などから上昇を続けたことで、ドルの底固さを支えている。また、日銀による緩和策の維持から円は売られやすく、ドル円はもみ合いながらも堅調な推移が続くとした。

【ドル円は底堅い動き】

ジャクソンホール会議を前にドル円は144～146円台で振幅を見せた。21日には米10年債利回りは一時4.35%台に乗せたこともあり、ドル円は146.40近辺まで上昇した。23日には8月の米製造業PMI速報値、米サービス業PMI速報値がいずれも予想から下振れしたことで、米長期金利が低下するとともにドル売りの動き

に傾き、ドル円は144円台半ばまで下落した。

24日には米新規失業保険申請件数が市場予想を下回り、労働市場の堅調さが示されたことで、米長期金利が上昇して、ドルの買い戻しにつながった。ドル円は145.90台まで上昇して、25日には146円台に乗せている。

8月28日の週は、29日の米雇用動態調査（JOLTS求人件数）、30日の米8月ADP雇用統計、米第2四半期GDP改定値、31日の米7月個人消費支出（PCE）デフレーター、1日に米8月雇用統計、米8月米ISM製造業景況指数など注目度の高い経済指標が相次ぐ。今後はこれらの米経済指標の動きに左右されそうだ。米国経済の強さを示す指標が多いとみられ、ドルを下支えする要因となろう。

米国経済が底堅い動きを見せており、リセッション（景気後退）への警戒感は乏しく、堅調さを維持することとなると、インフレ率が市場の想定ほどは低下しない可能性が出てくる。そうした状況下では、経済指標次第ながらも米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを継続する姿勢が意識される。そうすると、ドルは底堅い動きが継続することとなろう。

一方で、日銀は大規模緩和策を維持する意向を示しており、引き続き円は売られやすい流れが続くそう。こうした状況下では、ドル円は経済指標に左右されやすいものの、もみ合いながら上値を迫る可能性が高そう。ドル円の目先の予想レンジは、143.00～148.00円。

注目されたジャクソンホール会議での米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の発言は、「今後の会合でデータを踏まえ慎重に進む」「追加利上げについては慎重に進める」「必要に応じて利上げする準備がある。インフレが持続的に減速するまで引き締め続ける」といった内容となった。発言を受けてドル円は上下に高下したものの、売買が一巡すると、追加利上げに関する発言に反応してドル高に傾き、ドル円は146.60台まで上昇した。

上記以外の日米の経済指標やイベントとしては、28日に日本6月景気動向指数改定値、29日に日本7月雇用統計、日本7月有効求人倍率、米6月住宅価格指数、米6月S&Pケースシラー住宅価格指数、米8月消費者信頼感指数、31日に日本7月小売業販売額、日本7月鉱工業生産指数速報値、米新規失業保険申請件数、米7月個人所得・個人支出、米8月シカゴ購買部協会景気指数、1日に米8月製造業PMI確報値、米7月建設支出などがある。

#### 【ユーロドルは軟調な流れか】

23日に発表されたドイツ、フランス、ユーロ圏の製造業PMI速報値はこれまでに悪化が続いてきたことで、若干改善の兆しが見られた。一方で、サービス業PMI速報値は製造業に遅れて悪化してきていることで、欧州各国の景気減速への警戒感からユーロが売られた。ユーロドルは24日に1.0800近辺まで下落、25日には1.0700台後半まで下落するなど、さえない展開を見せている。

30日の独8月消費者物価指数速報値、31日のユーロ圏8月消費者物価指数速報値がインフレ率の鈍化傾向を示すようなら、ユーロドルは一段と下値を探る展開となりそうだ。他の経済指標もユーロ圏経済の弱さを示すようならユーロドルには重石となる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650～1.0950ドル。

ポンドドルは22日に1.2800ドル近辺まで上昇したものの、その後は値を崩している。23日に発表された8月の英製造業PMI速報値やサービス業PMI速報値がいずれも市場予想を大きく下回ったことで、英国の景気の先行き不透明感が広がった。25日にはポンドの弱さにドル買いの動きも加わり、1.2600ドルを割り込み、その後も上値重く推移している。

今後はドルの堅調な地合いが続くようならポンドドルは上値の重い展開となりそうだ。9月1日には英8月製造業PMI確報値が発表される。速報値から下振れするようだと、ポンドドルの下落が一段と進みそうだ。一方で、速報値から改善を見せるようだ

とポンド売りの動きが一服しそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2400  
～1.2750ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、28日に豪7月小売売上高、30日に豪7  
月住宅建設許可件数、豪7月消費者物価指数、スイス8月KOF先行指数、31日に中  
国8月製造業PMI、中国8月サービス業PMI、スイス7月小売売上高、独8月雇用  
統計、ユーロ圏7月雇用統計、1日に中国8月財新製造業PMI、スイス8月消費者物  
価指数、独8月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月製造業PMI確報値、カナダ第2四  
半期GDPなどがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。